

多良木高等学校 平成30年度学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>くまもとの教職員像の教育行動指標である「認め・ほめ・励まし・伸ばす」を全ての教育活動の基盤とし、校訓「平和・勤労・進取」を背景に、社会人としての基礎をつくる。</p> <p>そして、「志高く キラリ輝く『多高生』～夢・汗・涙”感動体験”～」のキャッチフレーズのもと、学校を人間成長の場と位置づけ、様々な「感動体験」を通し、「豊かな心」を育み、「生きる力」を身に付けさせる。</p> <p>更に、生徒一人一人の教育的ニーズに応じて指導し、進路目標の達成のために学力向上を中心とした取り組みを実践するとともに、社会に貢献できる人材の育成を図る。</p> <p>併せて、「地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり」を積極的に推進し、「地域から愛され、地域から信頼される学校」を目指す。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 求める生徒像</p> <p>(1) 基本的な生活習慣が確立できる生徒</p> <p>(2) 自ら意欲的に学ぶことができる生徒</p> <p>(3) 夢や希望に向かって努力する生徒</p> <p>(4) 「個」を大切に、「公」も大切にする生徒</p> <p>(5) 地域を知り、地域に貢献できる生徒</p> <p>2 努力目標</p> <p>(1) 自らを律する力の育成</p> <p>(2) 学力の向上</p> <p>(3) 進路希望の達成</p> <p>(4) 豊かな人間関係、コミュニケーション力の醸成</p> <p>(5) 心身の健康増進</p> <p>(6) 個に応じた指導の徹底</p> <p>(7) 情報化社会に対応する能力の育成</p> <p>(8) 地域に開かれた教育の充実</p>
--

3 自己評価総括表		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校活性化	○生徒及び地域にとって魅力のある学校となっているか	○生徒の転退学者等の進路変更を1人も出さない	○会議や事務を精選して、教職員が生徒に関わる時間を増やす	B	○転退学者等の進路変更を出さなかった
		○職員がやりがいを感じ、生き生きと働いている学校であるか	○「多良木高校に来て良かった」との自己評価100%を目指す	○支援学校や小学校、地域の方々との交流する機会を増やす(学校行事の開放、ボランティア活動の充実)		○体育コース、福祉教養コース、部活動等の単位で地域・支援学校との交流、ボランティアを積極的に行なった
			○職員の休職や長期の私傷病を1人も出さない	○職員の在校時間調査を通し、適正な業務分担となっているか確認する	B	○月の在校勤務時間数80時間を超える職員0人。平均28時間。昨年と比較して平均17時間減少した
				○会議や事務の精選を図り、職員が生徒に関わる時間や教材研究、自己研修の時間を確保する		○指導力向上研修会に積極的に参加し、授業改善のスキルアップを図ることができた

	安全管理	○学校管理下での事故が起こらないような対策ができていますか	○校舎内外の危険箇所をなくし、学校管理下での事故をゼロにする	○毎学期に綿密な安全点検を行い、日常で施設設備の点検と迅速な修理を行う	A	○毎学期安全点検を実施した。また、施設の点検をしながら大掃除を行い校内の物品整理を行った
学力向上	学力向上	○学習内容と分量を明確に指示することで、学習に対する見通しを持たせることができているか。また、様々な取組が生徒の主体的な学習を促すことに繋がっているか	○1日あたりの平均家庭学習時間を、70分確保 ○朝自習課題及び家庭学習課題「日々の演習」の全員提出 ○YEBISUゼミ出席率95%	○定期考査の出題範囲を明確に提示する ○家庭学習時間を記録し、統計や成績との相関を生徒に還元する ○未提出者は、放課後に提出するまで指導を行う ○学習評価に直結する内容を実施することで動機付けを図る。また、欠席者に指導を行う	C	○1日当たりの平均家庭学習時間は51.7分と目標は達成できなかった。2学期以降の学習時間が著しく少なかったことが全体として少ない結果となった ○個別指導でほぼ全員提出できた ○YEBISUゼミ出席率89.0%で目標を達成できなかった。居残り指導も行ったが毎回数名が欠席し、効果は薄かった
		○生徒が積極的に授業に取り組む環境作りと教師の分かりやすい授業展開が共になされているか	○授業に積極的に取り組んでいる生徒及び授業に満足している生徒が共に90%以上(生徒による授業評価アンケート)	○ICT機器等を整備し、教師によるわかる授業の実践の推進及び校内研修の設定	A	○授業に積極的に取り組んでいる生徒1学期94.4%→2学期91.4%、授業に満足している生徒1学期90.7%→2学期93.4%と一部減少はしたものの目標は達成できた
授業力向上	授業力向上	○教師間の相互公開授業や、年2回の生徒を対象にした授業アンケート結果を踏まえ、授業の改善の取組を積極的に行っているか	○相互公開授業週間中に最低2回の参観を教員に課し、参観率8割以上 ○生徒による授業アンケートを年2回実施し、授業改善案の提出を課す	○相互公開授業週間を年2回設定し、参観を促す声かけと、参観状況の確認を行う ○期末考査後にアンケート期間を設定し、長期休業中に改善案の作成を依頼する	B	○相互公開授業週間を年2回実施できたが、参観率は72.7%にとどまった。参観できなかった職員は固定されていた ○生徒による授業アンケートは計画的に実施でき、教員による授業改善案も提出された
		○教師が授業改善の取組を意識しているか。また、その環境が整っているか	○教師の説明がわかりやすいと感じる生徒80%以上 ○ICT機器を利用していると感じる生徒60%以上	○相互公開授業と生徒アンケートの結果を踏まえ、授業改善を目的とした研修等の設定 ○ICT機器の利用環境整備と活用方法の研修の実施	B	○授業アンケートより、わかりやすいと感じる生徒は1学期87.0%→2学期90.2%と目標を達成できた ○授業アンケートより、ICT機器を利用していると感じる生徒は1学期33.9%→2学期47.3%と増加したものの目標は達成できなかった

<p>キャリア教育(進路指導)</p>	<p>進路意識の高揚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育について、キャリアプログラムの見直しができているか ○学力向上や資格取得について積極的に取り組むよう意識付けを図っているか ○生徒の進路意識を高めるガイダンスやタイムリーな情報の提供が行われているか ○生徒の進路希望を具体的に把握し、適切に進路指導ができているか ○保護者に対して進路意識を高揚できる手立てが図られているか 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態に応じたキャリアプログラムを計画的に実施する ○生徒全員が一つ以上の資格を取得している ○ガイダンスの内容を生徒の実態に応じて見直す。また、キャリアサポーターや企業・上級学校の情報を生徒・職員に提供し、共有する ○学期ごとに面談やアンケートを通して生徒の進路希望を把握し、担任・学年団との連携を深め、就職や進学 mismatches を防ぐ。また、3年生の1月までの進路決定率を94%以上とする ○保護者への情報の発信を、時期に応じて行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な学習の時間」に、進路希望に応じたキャリア教育を、より適切な時期に適切な指導を行う ○資格取得に向けた取り組みを各教科に働きかけ、資格の優遇措置等の情報提供を行う ○生徒の実態に応じたガイダンスを計画する。また、企業や上級学校に関する情報の収集と発信を行う ○学年全体で生徒の進路希望を共有・検討し、適切な対応を図る ○PTA総会時に進路資料「進取」を発行する。また、学年保護者会の実施や、進路ニュースの発行を行う 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の観点から、時期に応じた学習プログラムを計画的に実施すると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学習・面接指導や小論文対策などを行うことができた ○生徒全員の資格取得は実現できなかったが、英語検定の全員受検をはじめとし、今年度3年生の資格取得率(88.1%)は昨年度(79.1%)よりも大幅に上昇した ○1学期を中心として各種ガイダンスを実施することができた。また、来校企業・学校からの聞き取りやキャリアサポーターにより、企業や上級学校の情報収集を行い、生徒や職員へ情報の提供を適宜行うことができた ○1月までの進路決定率は100%を達成することができたが、8月当初において出願などの諸手続きに関する期間の把握が徹底できなかった ○PTA総会時に「進取」を発行し、学年保護者会時に進路別説明会を実施し、進路情報の提供を行った。また、定期的に「進路ニュース」を発行することができた
---------------------	----------------	--	---	--	--

生徒指導	<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員で生徒の指導に取り組んでいるか ○地域や保護者と連携して生徒の指導に取り組んでいるか ○多高生としての誇りを持たせる工夫を行っているか ○生徒が安心・安全な生活を送る体制づくりができているか 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員による声かけと対話を通し、多高生としての規範意識を高める ○指導を通し、保護者との連携を深め、皆で生徒を見守る体制を作る ○行事や委員会活動等を通し感動体験の場の提供、「多良木ファミリー」の一員としての高い意識、誇りを育成する ○二重ロック率年間95%以上維持。 ○特別指導の件数を3件以下、登下校中の交通事故を0件にする。 ○インターネット、SNSを介した外部とのトラブルを0件にする 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的登下校指導、定期的校内巡回指導を行う ○指導票による指導 ○生徒指導部だよりを学期に3回以上発行し、生徒、保護者への啓発、情報発信を行う ○体育大会等の行事や生徒会活動、部活動を通じ、協力して得る感動体験の場を提供する ○月1回の駐輪場点検、交通ルールについての日常的指導を行う ○交通安全教室、薬物乱用防止教室、情報モラル教育を実施する 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登下校指導は不定期ではあるが、実施できた。校内巡回指導に関しては2回実施した ○指導票による指導は有効的に実施できた。5枚を超えた生徒が5名であった(1月末) ○生徒指導部便りは1月末で7号までの発行であった ○三年生のみであることから、計画の段階は職員が殆どを行ったが、当日に向けての練習等、充実した実践となり、感動体験の場となった ○駐輪場の点検は計画的に実施でき、年間95%の実施率であった ○特別指導に関しては0件、交通事故も0件であった ○インターネットを介した外部とのトラブルは無かったが、校内の生徒間のトラブルがあった
人権教育の推進	<p>命を大切にすることを育む指導(人権・道徳教育をおして)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育LHRを学期毎に委員会の計画のもと取り組んでいるか。 ○職員が生徒を指導する際、言動が人権に配慮したものとなっているか ○生徒に人権を尊重する意識が育っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期に学年に応じた内容の人権教育のLHRを設定する ○職員が人権意識や人権尊重の視点を配慮した言動を実践し、体罰や生徒・保護者からの苦情をゼロにする。 ○本校の人権教育が充実しているという生徒が80%以上、生徒の実態に即した人権教育を実践しているという職員が80%いるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画に沿って人権教育推進委員会が取り組む ○人権教育推進委員会による職員研修を実施する ○学校適応指導・就学保障に取り組む 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1学期、2学期と人権教育LHRを実施することができた ○本校職員による体罰の報告はなかった。保護者からの苦情もなく、目標を達成した ○人権教育が充実していると答えた生徒は89.6%になり、目標を達成できた。しかし、職員に関しては、57.9%と目標数値を遥かに下回った

	健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○健康的な食習慣を身につけさせるために、生徒の食生活の把握と、生徒・保護者への啓発活動が行われているか ○学習できる快適な環境づくりに生徒・職員全員で取り組む。同時に閉校へ向けて校内の整理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の食生活の実態を把握し、改善の方向性を探り、学校・家庭・地域が連携して食育に取り組む ○みんなで共有する場所の美化に関心を持って、自ら動ける生徒たちの育成を目指す ○生徒と職員が協働して校内整理を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統料理や郷土料理の料理実習を地域と連携し実施する ○食育だより等を通し、家庭への啓発を行う ○通常の掃除は美化強化週間を設けて、項目ごとに重点的に掃除に取り組む ○月に一度普段行き届かない箇所の掃除と整理に努める時間を設定する 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭ではしたことがない、という生徒の実態を基に調理実習で巻き寿司や茶巾絞り、栗ご飯など伝統料理を実施した ○保護者と連携し、校内行事にて調理した物を生徒と共に喫食した ○食育便りを発行し、食生活についての啓発を行った <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美化強化週間でそれぞれの箇所での重点項目を設定し取り組むことができた ○率先して片付け作業を行ってくれた職員・生徒有志のおかげで校内の整理が進んだ ○保護者・生徒・職員に加え、地域の方々にも清掃作業をお手伝いいただき、閉校に向けての準備が整いつつある
いじめの防止等	いじめ未然防止	○全ての生徒が「いじめは決して許されない」ことを理解しているか	○いじめ継続中の件数を0件にする	<ul style="list-style-type: none"> ○6月の心のきずなを深める月間を通じて、「いじめ」について考えさせる。 ○学校行事等を通して、生徒同士の繋がりを強くする。 ○心のきずなを深める標語の作成を行う。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケートにて継続中と答えた生徒は0件であった。いじめと認知した件数は4件であった ○標語の作成や、アサーショントレーニングLHR「いじめ」や心のきずなについて考えさせることができた
	いじめの早期発見と対応	○いじめの早期発見と、適切な初期対応がとれているか	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ」による不登校・進路変更者を出さない ○全職員の共通理解の下、徹底した支援と指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○6月、11月にアンケートの実施 ○各部署での情報共有の徹底 ○校内巡回指導や個人面談の実施 ○被害者への支援、加害者への指導を家庭、関係機関とも連携をとりながら徹底していく 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケートは計画通り実施できた ○生徒間のトラブルに関して、学年主任、担任、生徒指導部で連携して早めの対処（面談・指導）をすることができた ○各部会での、早めの情報共有を行うことができた ○家庭への連絡等、迅速に対処することができた
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	情報の発信	○PTA会報誌「木綿葉」を通じて、保護者や地域の方	○PTA会報誌「木綿葉」は調査広報委員を中心に4回	○写真の管理を徹底する。また、レイアウトの方法等を検討	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○係の職員の努力と調査広報委員の皆さんのご協力のもと、充実した会報

)		方に学校のPRに努めているか	発行する。	する。また、複数の制作者が担当し、紙面の充実を図る		誌が作成された。また、様々な方々への原稿の依頼により、紙面が充実した
		○保護者への配付物がきちんと保護者の手元に届いているか	○配付物が生徒の担当箱等に残っていない	○重要な文書については、担任に協力してもらい、回収を徹底する	B	○生徒の回収率約85%であった。100%に満たなかった原因は、総務部長から担任への働きかけが足りなかったことである
	コミュニティスクール	○防災型コミュニティスクールとして連携がとれているか	○非常事態発生時に備えて、警察、消防、地域、中学校等と密な連携をとる	○防災教育LHRを実施する ○学校運営協議会を3回実施する。 ○多良木町の防災訓練に本校も参加する	B	○防災教育LHRは学年で実施することができた ○運営協議会は、多良木町の訓練が無かったことにより2回の実施となった

4 学校関係者評価

○少ない生徒と職員であっても校内がとても整備されていることにびっくりしている。計画的に行われていることが感じられる。○アンケート結果から先生方のきめ細やかな指導が感じられる。先生方に感謝します。○職員の指導の視点、基準を高く設定して指導されている。厳しく見ることはとてもよい指導である。○アンケート結果からも生徒の頑張りが感じられる。有終の美を飾ってくれた。○母校でもあり、2人の子供がお世話になったので閉校はとても淋しいが、この学校にお世話になり幸せだった。○地域代表として学校を見てきましたが、地域に根ざした学校であり、素晴らしい教育をしていただき、ありがとうございました。感謝の一言です。○この学校の卒業生で良かったと思う学校にさせていただきありがとうございました。○子供たちがこの学校を選んで良かったと思って卒業することがとてもうれしい。

5 総合評価

<学校評価アンケート対象者別結果一部抜粋>

1 職員

(1) ポイントが高い項目

13 行事の充実	93.0 (+13.3)
20 開かれた学校づくり	78.9 (+2.1)
16 健康・安全教育	71.9 (+9.6)

(2) ポイントが低い項目

14 人権教育の取組	15.8 (+2.7)
5 仕事上の連携	19.3 (+6.3)

(3) ポイントが伸びている項目 (10ポイント以上)

6 教育課程の特色	68.4 (+20.6)
13 行事の充実	93.0 (+13.3)
7 授業時数の確保	68.4 (+11.9)
12 図書館は利用しやすい	68.4 (+11.9)
17 施設の整備	50.9 (+11.7)
4 各部会での活発な意見交換	29.8 (+11.0)

(4) ポイントが落ち込んでいる項目 (10ポイント以上)

9 基本的生活習慣の確立	47.4 (-12.1)
--------------	--------------

2 生徒

(1) ポイントが高い項目

1 校訓が言える	77.1 (+13.2)
10 学校行事は充実している	75.1 (+4.8)
11 図書館は利用しやすい	74.7 (+9.3)

(2) ポイントが低い項目

2 授業の教え方・説明が分かりやすい	43.3 (+14.9)
--------------------	--------------

(3) ポイントが伸びている項目

15 ボランティア活動に積極的	55.2 (+17.0)
2 授業の教え方・説明が分かりやすい	43.3 (+14.9)
6 生活指導は適切	65.2 (+14.4)

5	進路実現に向けて努力している	66.2 (+13.6)
1	校訓が言える	77.1 (+13.2)
13	互いの意見を尊重し合うようにしている	67.2 (+10.6)
(4)	ポイントが落ち込んでいる項目・・・なし	
3	保護者	
(1)	ポイントが高い項目	
2	保護者や地域から信頼されている	80.1 (+11.9)
3	入学させて良かった	78.1 (+8.1)
13	学校行事の充実	75.1 (+8.7)
(2)	ポイントが低い項目	
17	P T A 活動に協力的	10.4 (-0.5)
(3)	ポイントが伸びている項目	
2	保護者や地域から信頼されている	80.1 (+11.9)
16	広報活動が活発	59.2 (+11.0)
8	進路実現に向けて努力している	63.2 (+10.9)
(4)	ポイントが落ち込んでいる項目	
12	掃除が行き届いている	47.3 (-12.5)

「行事の充実」の項目は職員と生徒、保護者とすべてにおいて高く、体育大会や文化祭等の学校行事は、地域の方々の協力のおかげで成功を収め、生徒の感動体験の場となり、生徒の「豊かな心」を育むことができた。唯一の学年である3年生が、担任を始めとする全職員の指導と生徒の努力の結果、1月時点で全員の進路が確定したことは生徒の自信にも繋がったと思われる。しかし、生徒の学習習慣の確立を主とした「学力向上」の項目に関しては、家庭学習の習慣を定着させることができず、残念な結果となってしまった。一方、職員は「分かりやすい授業」づくりに努めており、生徒の評価も高かったことは救いであった。

また、職員の「開かれた学校づくり」の項目と保護者の「保護者や地域から信頼されている」の項目の値が昨年度に引き続き高く、数値も伸びていることから、「地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり」に向けた取組も十分で、地域からも評価されていたと考えられ、「地域から愛され、地域から信頼される学校」として有終の美を飾ることができた。